



学校報「三中の木」



令和6年1月25日(木)
第19号 文責: 校長 工藤 真弘
TEL: 52-5138

秋田県学習状況調査結果(1、2年生対象) 本校は「学力・心の豊かさ」両面で良好、もっと自信をもって

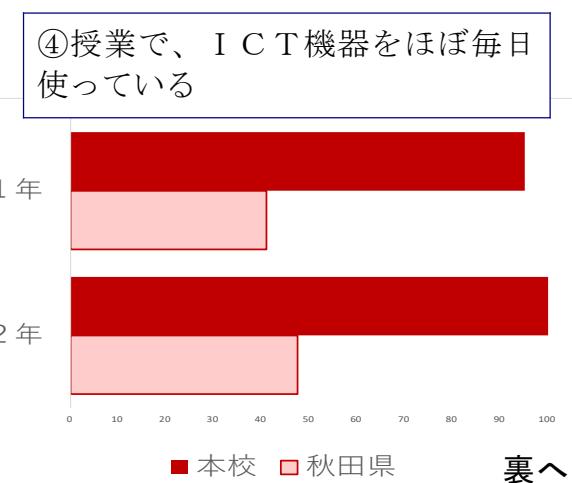
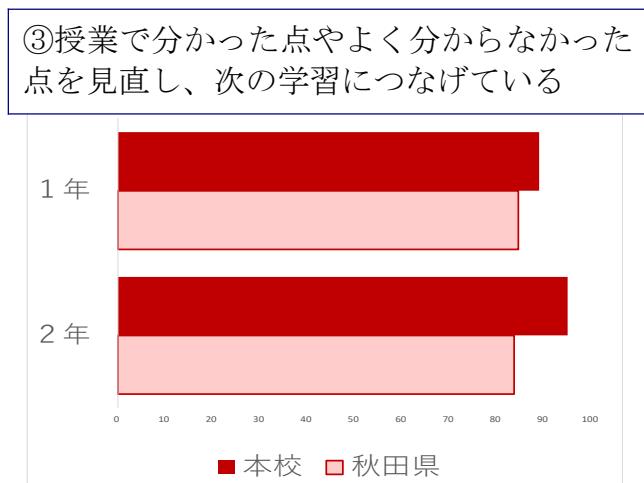
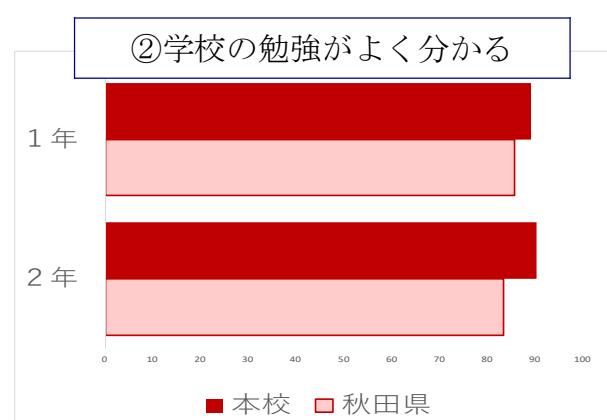
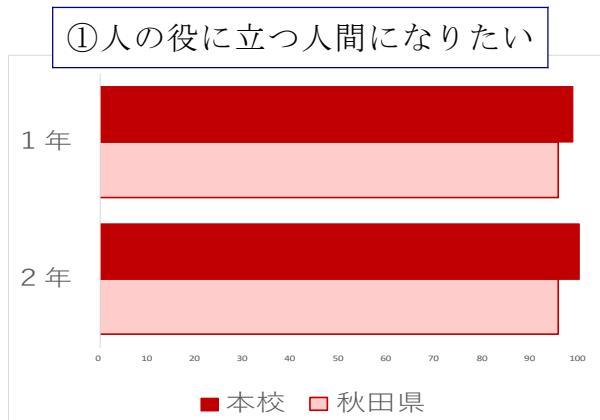
昨年12月に1、2年生が受けた秋田県学習状況調査の結果が確定しました。教科の結果について本校の数値は公表できませんが、本校の1年生は、5教科のうち3教科が県平均を上回り、2教科が同等でした。2年生は、5教科すべて上回りました。

教科の結果も素晴らしいのですが、もっと素晴らしいのは、同時に実施した生徒質問紙(生徒アンケート)の結果です。「人の役に立つ人間になりたい」といった心の豊かさ、「学校の勉強が分かる」「授業の内容で分かった点、分からなかった点を見直す」といった学習に向かう姿勢についても二中の1、2年生は秋田県の平均を上回っていることです。授業におけるICT活用は、今年度も県平均を大きく引き離しています。

一方で、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」という点については伸びしろを感じます。力があるのですから、自信をもてるようにしたいと思います。

生徒質問紙(アンケート)結果より

※グラフ①～③は、質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」など、肯定的な回答した生徒の割合の合計を示しています。



裏へ

○自己肯定感は活動の原動力

「自分にはよいところがある」といった自己肯定感は、子どもだけでなく大人にとっても主体的な活動の根源となる重要な価値観です。

得意、結果を出せている「よさ」は、数値や順位などで視覚化され、客観的に自覚することができます。優しさやひたむきさ、正直さ、公平さなどといった「よさ」は、直接数値化される機会がなく、誰かに褒められたり感謝されたりしないと、本人は自覚しない今までいる可能性があります。

よさの自覚の延長線上に、夢や目標があると思います。一人一人が「自分のよさ」に気付き自信をもてるよう、学校でも機会を捉えて褒めて、認めていくよう努めます。ご家庭では、親から見た「自分のお子さんによさ」を本人に伝えるなど、改めて自覚できる機会を設けてあげてください。

